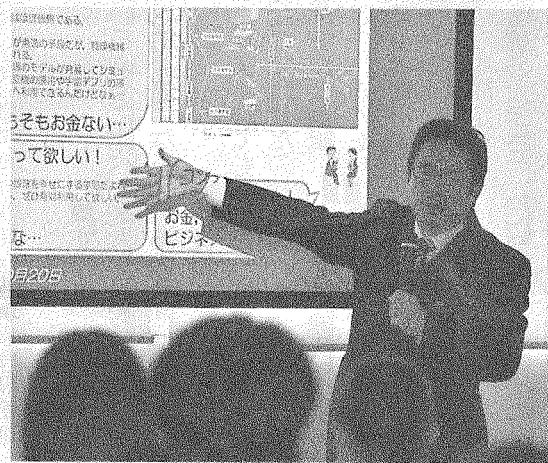


@東京都・多摩大学目黒高



首都大学東京の佐原宏典教授（航空宇宙システム工学コース）が訪れたのは、東京都の多摩大学目黒高校。1、2年生の希望者54人に「宇宙研究と衛星開発」について講義した。

佐原教授によると、今や人工衛星は超小型かつ低価格の時代。2020年度までに2千機が打ち上げられようとしているという。

そんな中で佐原教授の研究室が参加しているのが「人工流れ星プロジェクト」。衛星から人工の流れ星を放出する。高層大気の観測データを取得するのが目的なのだが、その流れ星を見学するイベントを開いて事業収益を図る。サイエ

首都大学東京の佐原宏典教授（航空宇宙システム工学コース）が訪れたのは、東京都の多摩大学目黒高校。1、2年生の希望者54人に「宇宙研究と衛星開発」について講義した。

佐原教授によると、今や人工衛星は超小型かつ低価格の時代。2020年度までに2千機が打ち上げられようとしているという。そんな中で佐原教授の研究室が参加しているのが「人工流れ星プロジェクト」。衛星から人工の流れ星を放出する。高層大気の観測データを取得するのが目的なのだが、その流れ星を見学するイベントを開いて事業収益を図る。サイエ

都立大学を再編・統合して設立された。都市教養学部、都市環境学部、システムデザイン学部、健康福祉学部の4学部がある。2018年度より7学部に再編予定。

衛星開発「失敗」が生む進歩

2年生の吉田佑貴さん

は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）などのウェブサイトを事前に見て講義に臨んだ。「衛星の打ち上げをニュースで見て、関心を持つていた。造る裏側の話を聞けてよかったです」と話した。同じく2年生の前野海翔さんは、「将来の進路がまだ見つからず、色々な話を聞いてみたいと思つて参加。『商業目的での宇宙開発の話を面白かった。自分なりに何かを考えてみたい』と話した。